

科目区分	総合科目				
授業科目名	ヒロシマ学				
授業科目名 (フリガナ)	ヒロシマガク				
英文授業科目名	Hiroshima Studies				
担当教員名	布川 弘				
開講部局	教養教育				
開講キャンパス	東広島				
授業の方法	講義	単位	2	週時間	2
開設期(開講期)	1年次生 前期(1 Semester)	講義室	総L102		
曜日時限	月 3時限, 4時限				
対象学生					
教職専門科目			教科専門科目		
授業の概要	「ヒロシマ」とは何か。その意味を多方面から考える。				
授業のキーワード	原爆 ヒロシマ 被爆者 平和				
教養教育の中での この授業科目の 位置づけと 学習の成果	広島ならではの「平和」についてのメッセージを発するため、領域の異なる複数の教員や学外からの講師も交えて専門知識を提供しあい、それを立体的に関連付ながら、個別学問領域を越えた広い視野に立って講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション?ヒロシマとは (布川 弘; 広島大学総合科学部)</li> <li>2. 原爆被爆体験を語る (久保浦寛人先生; 原爆被爆者証言のつどい)</li> <li>3. 原爆の人体への影響 (神谷研二先生; 広島大学原爆放射線医学研究所)</li> <li>4. 韓国人被爆者・在外被爆者 (豊永恵三郎先生; 韓国の原爆被害者を救援する会)</li> <li>5. 外国から見た原爆による爆撃 (P.A. ゴールズベリ先生; 元広島大学総合科学部)</li> <li>6. 原爆投下の歴史的意義 (1) (布川 弘)</li> <li>7. 原爆投下の歴史的意義 (2) (布川 弘)</li> <li>8. 平和学をどう学ぶか (岡本三夫先生; 広島修道大学名誉教授)</li> <li>9. 原爆被害からの復興 (1) (布川 弘)</li> <li>10. 原爆被害からの復興 (2) (布川 弘)</li> <li>11. 原爆の開発: マンハッタン計画 1 (市川 浩; 広島大学総合科学部)</li> <li>12. 原爆の開発: マンハッタン計画 2 (市川 浩)</li> <li>13. ヒロシマの課題 (田中聡司先生; 元中国新聞社)</li> <li>14. まとめ (布川 弘)</li> <li>15. ディスカッション</li> <li>16. 試験 (布川 弘)</li> </ol>				
予習・復習への アドバイス	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. カタカナの「ヒロシマ」とは何か、考えてみる。</li> <li>2. 被爆の体験を聞いて、特に印象に残った部分を書き出してみる。</li> <li>3. ヒト・ゲノムの不思議なはたらきと原爆の関係について、しっかり把握する。</li> <li>4. 在外被爆者がおかれた状況について整理してみる。</li> <li>5. 原爆投下について日本人以外の人々の意見をしっかり把握する。</li> <li>6. 原爆投下を正当化する根拠を見つめてみる。</li> <li>7. 原爆が何故広島に投下されたのか、考えてみる。</li> <li>8. 平和学の多様性を把握する。</li> <li>9. 原爆が戦後世界に与えた影響について考えてみる。</li> <li>10. 広島戦後復興の光と影を見つめてみる。</li> <li>11. 原爆開発に見られる科学技術の問題点を考えてみる。</li> <li>12. 原爆開発に見られる科学技術の問題点を考えてみる。</li> <li>13. 未来に発するヒロシマからメッセージを考えてみる。</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. ディスカッション</li> </ol>				
授業内容を理解する ために読むべき テキスト等	講義形式(講義中心; プリント、講義レジュメを配布) 使用する視聴覚教材の種類(ビデオ・DVD・パワーポイント等)				
既修得要件等授業を 受ける上での注意点					
メッセージ	「平和を希求する精神」は、広島大学の理念です。				